

各設問の解説

① 急に(急に言われても困る。)

・正解:エ 形容動詞

・解説:

「急に」の言い切りの形(基本形)は「急だ」である。「急な(坂)」のように「～な」の形で名詞に続くことができるため、これは形容動詞である。「急に」は形容動詞の連用形にあたる。

(※もし「急に」を副詞として扱う場合、辞書的にはあり得るが、学校文法の品詞分類問題では「言い切りの形が『だ』になる言葉」として形容動詞に分類するのが定石である。)

② 全く(私には全く関係ない話だ。)

・正解:イ 副詞

・解説:

「全く」は、後に続く「関係ない」という語句を修飾し、程度や状態を強調している。活用(形の変化)がなく、主語にならず、修飾語にしかならないため、副詞である。

③ つもり(将来は学者になるつもりだ。)

・正解:ア 名詞

・解説:

「つもり」は、「～するつもりだ」のように使われるが、元々は「積もり(積もること・意図)」という意味を持つ語である。文法的には形式名詞と呼ばれ、名詞の一種として扱われる。「だ(助動詞)」がついたり、「なる(連体形)」に修飾されたりしている点からも名詞の性質を持つ。

④ だけ(これだけあれば十分だ。)

・正解:ウ 助詞

・解説:

「だけ」は、言葉に添えて意味(限定の意)を加える働きをする助詞(副助詞)である。活用(形の変化)もしない。

【考え方】

【ステップ1】「自立語」か「付属語」か？

- それだけで意味がわかる？（文の先頭に置けるか？）
- YES → 自立語（名詞、動詞、形容詞など）▶ステップ2Bへ進む
- NO → 付属語（助詞・助動詞）▶ステップ2Aへ進む

【ステップ2A】助詞？助動詞？

見分け方：言葉の形を無理やり変えてみる！

その言葉に、「ない」「ます」「た（だ）」などを続けて、形を変えられるか試す。

- 形が変わる（変身できる）→ 助動詞
- 形が変わらない（ずっとそのまま）→ 助詞

1. 助動詞（変身できるよ）

周りの状況に合わせて、自分の姿を変えることができる。

- 例：「食べられる」（受け身）
- 否定にする → 「食べられ（ない）」... 「られる」が「られ」に変わった！
- 過去にする → 「食べられ（た）」
- 仮定にする → 「食べられ（れば）」
- 判定：形が変わるので「助動詞」
- 例：「行きたい」（希望）
- 過去にする → 「行きたかった」... 「たい」が「たかつ」に変わった！
- 判定：形が変わるので「助動詞」
- ※「れる・られる」「せる・させる」「ない」「たい」「だ・です」「ます」「らしい」「ようだ」などが代表選手だ。

2. 助詞

何があっても形を変えない。ただくっつくだけ。

- 例:「私が」(主格)
- 否定にしてみる → 「私が(ない)」... 「が」は「が」のまま。
- 過去にしてみる → 「私が(た)」... 文は変だが、「が」の形は変わらない。
- 判定:絶対に形が変わらないので「助詞」
- ※「て・に・を・は」「が」「から」「ので」「ば」「と」「も」「ね」などが代表選手だ。

【ステップ2B】(自立語の場合)形が変化するか？

- 「ない」や「た」をつけると形が変わる？
- YES(活用がある)→ 用言(動詞・形容詞・形容動詞)▶ステップ3Aへ
- NO(活用がない)→ ステップ3Bへ

【ステップ3A】(活用がある場合)言い切りの形(基本形)は？

- 「う」段で終わる(歩く、食べる)→ 動詞
- 「い」で終わる(美しい、高い)→ 形容詞
- 「だ」で終わる(静かだ、きれいだ)→ 形容動詞
- ※ここが最大のポイント。「～な」に変えられるなら形容動詞だ。

【ステップ3B】(活用がない場合)何になるか？

- 主語になれる(「が・は」がつく)→ 名詞
- 修飾語になる(他の言葉を説明する)
- 下の「名詞」にかかる(例:この本、大きな家)→ 連体詞
- 下の「用言(動詞・形容詞)」にかかる(例:ゆっくり歩く、とても速い)→ 副詞
- 接続語になる(だから、しかし)→ 接続詞
- 独立している(はい、ああ)→ 感動詞

【ポイント】

①「形容詞」と「形容動詞」の区別

- 「い」で終われば形容詞、「だ(な)」で終われば形容動詞、と覚えるのが基本だが、変化した形(連用形)で出されると間違えやすい。
- 例:「すごく速い」と「静かに歩く」
- 「すごく」→元は「すごい」→ 形容詞
- 「静かに」→元は「静かだ」→ 形容動詞
- ★元に戻して「い」か「だ」かで判断せよ。

②「連体詞」と「副詞」と「形容動詞」の区別

- 「大きな」(連体詞)と「静かな」(形容動詞の連体形)の違い。
- 「大きだ」とは言えない → 活用しない → 連体詞
- 「静かだ」と言える → 活用する → 形容動詞
- 「副詞」は名詞以外にかかる。
- 「ゆっくり」→「歩く(動詞)」にかかる → 副詞

③「名詞」の隠れキャラ

- 今回の問題にあった「つもり」「こと」「もの」「とき」などは、形式名詞といって立派な名詞だ。「が」をつけて主語にできるか試すとよい(例:つもりがある)。
- 「これ・それ・あれ」も名詞(代名詞)だ。

④「ない」の区別(超頻出)

文末や言葉の終わりにある「ない」は、形容詞か助動詞かで迷うことが多いが、ここでは「ぬ」に置き換えられるかで判断する。

1. 助動詞の「ない」(打ち消し)

- 「ぬ」に言い換えられる。
- 例:「書かない」→「書かぬ」(言える! → 助動詞)

2. 形容詞の「ない」(無い)

- 「ぬ」に言い換えられない。「ありません」の意味。
- 例:「お金がない」→「お金がぬ」(変! → 形容詞)
- ※形容詞は「自立語」なので、文節の先頭に来ることができる(「ない袖は振れぬ」など)。